ルカの福音書　第24章　32節

「そこでふたりは話し合った。『道々お話になっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。』」

　主イエスにお仕えする仲間と久しぶりに会話する機会を与えられた。遠く離れているひとりの仲間との会話はいつも会っているような感覚で言葉を交わすことができた。過ぎた時の長さは障壁とならない。距離の遠さも問題にならない。それぞれの心のうちに灯されているキリストの霊の熱が交わす言葉の源泉だから。

　もうひとりの仲間とは対面での会話となった。久しぶりのことである。会話は歩道で続いた。歩きながら久しぶりに言葉を交わす機会となった。これも、いつも言葉を交わすような感覚で自然に会話に入る。言葉を交わしながらそれぞれが遣わされているフィールドでの課題やチャレンジを自由に話し合う。その言葉にはひかりがあり、熱がともない、希望がある。互いの心のうちに燃えるキリストの霊の熱が行き交う会話となる。歩きながらの会話は尽きない。

　ふたりが歩んでいる人生の道がキリストの霊の導きにあることを会話しながら確認、確信し合うことは心が燃える。その炎は、それぞれが遣わされた場所に帰っても燃え続ける。キリストの霊の熱は絶えることなくそれぞれの内に宿り続ける。

2023年10月31日